



標注播磨風土記

下

特別
イ4
3163
225(2)



貴
14
3163
225(2)





讚容郡の容を客と誤
れり。和名抄に佐用、佐
與。
五月をサとのみ云べ
き理なし。是ハ稻をう
うは頃の夜と云意を
あらしめむため。五
月夜とハ書けり。猶揖
保郡佐岡條の標注を
對見べし。
汝妹履中紀に汝妹此
云。難通毛。
他處下故字を落せり。
例よりて補ふ。
贊用都比賣命式に載
れり。續後紀嘉祥二年
預官社。
今有の有ハ在の意な
り。

標注播磨風土記下卷



讚容郡所以云讚容郡者大神妹妹二

柱各競占國出時妹玉津日女命捕卧

生鹿割其腹而種稻其血仍一夜出間

生苗即令取殖尔大神勅云汝妹者五

月夜殖哉即去他處故號五月夜郡神

名贊用都比賣命今有讚容町田也即

敷田年治注

發文此文之の誤。讚容郡事與里同ハ讚容里事與郡同ト作ベシ。和名抄ト佐用郷あり。吉川和名抄ト江川ト作。稻狹部ハ出雲國の地名トよりたる。姓なるベシ。黃連和名抄醫心方並加久末久佐ト注シ古今六帖トかくも草トよめはも同トありむ。故曰の曰字ト山名のト下トあるベシ。伊師詳ナラズ強テ按ト中昔の書トハ床を和まし等云るハ床をイシト云シ古言の殘リけむを彼倚子の字

カハナチシヤマライフカニハヤマトヤモノヨモニアリトヲマリフタダニミナ
鹿放山號鹿遊山山四面有十二谷皆
アリマガネナニハトヨサキノミカドニハジメテタツリキ
有生鐵也難波豐前於朝遊始進也見
マシヒトワケベノイヌソノヒコラマツルアスシノハジメ
顯人別部犬其孫等奉發文初
サヨノサトコトハトアガタオナシ主上ノ
讚容郡事與里同中
エガハ本名玉オホカミノシマオキ
吉川落川大神出玉落於此川故曰
タマオチトイマエガハトハイナサベノオホエガハアリキ
玉落今云吉川者稻狹部大吉川居於
コノムラニカレイフエガハトソノヤマハオヒリカマ
此村故曰吉川其山連生黃按見佐用都
ヒメノミコトニコノヤマエキカナグララカレイフヤモノナラカナグラト
比賣命於此山得金按故曰山名金肆

音ならむと思ひ誤リ我古言ハ何となくト
びしも知べありむ猶よく考べし
精鹿詳ならむ
升麻和名抄ト止里乃阿之久佐醫心方本草和名等ト宇多加久佐とも注せり俗トアハボとも水筆とも云速湍和名抄ト速瀬ト作
廣比賣那都比賣所狹
けれバ卷末ト云
邑寶和名抄ト脱
弥麻都比古命ハ上卷
筋磨郡條ト大三間津
日子命トあるトおな
じかるベシ然ハ孝昭
天皇を申せり
倉ハ食の誤なるベシ
糧ハ和名抄ト加天ト
あるハ略ト日本靈
異記ト可里ト万葉五

カハラナツシクラミトイシスチコレクラミノカハカミナリカハ
川名按見伊師即是按見出河上川底
ゴトシイカノカレイフイシト其山生精
如床故曰伊師鹿升麻
ハヤセノサト主上ノヨリチカハノセハヤキニスナトハヤセノヤシロニマス
速湍里中依川湍速爲名速湍社坐
カミヒロヒメノミコトモトツツヒメノオトナリ
神廣比賣命故那都比賣弟
コホリヌヒロヒメノミコトシシタフコノシニラトキコホラシメキヒラカレイフ
凍野廣比賣命占此主出時凍冰故曰
コホリヌコホリダニノムラト
凍野凍谷村
オホノサト主中ノミマツヒコノミコトホリチ井ヲモトヒカシラ
邑寶里上弥麻都比古命治井滄糧
スチノリキアハシムトオホクシニラカレイフオホムラトホリシキヲトコヲナツク
即云吾占多國故曰大村治井處號御

。播磨風土記下卷 佐用郡

。二

よ可利且波奈斯爾とあるは據れり。御井村今仁井村あり。

人參和名抄子加乃仁介久佐一名久末乃伊本草和名醫心方等よ亦已太とも注せり。獨活和名抄子宇止監藤ハ藍藤の誤なるべし典藥式播磨國年料雜藥の中又出雲風土記等子見ゆ。石灰和名抄子以之波比。中央マナカとよむべけれど天武紀よ有虹當于天中央とあるよ據る神武紀よハ中心をよめり。

井村。

鑿柄川神日子命出鑿柄令採此山故

其山出川號曰鑿柄川。

室原山屏風如室故曰室原。生人參獨活監藤升

麻白木、石灰

久都野。弥麻都比古命告云此山踰者可崩故曰久都野。後改而云宇努其邊

爲山中央爲野。

柏原カシハラと略てよむべけれど姑和名抄駿河國駿河郡郷名訓注の例は據

吳床和名抄子胡床阿久良古事記内宮儀式帳等子吳床をよめり。吳ハ吳の省文よて胡も同義。

苦編首姓氏録子登美首豐城入彦命男云ニ是。石屋式淡路國津名郡石屋神社。天皇勅云天皇ハ息長帶日賣命を申せり。即神功皇后の御事。近江天皇ハ天智天皇を申。道守臣姓氏録子豐葉

柏原里由柏多生號爲柏原。

筌戸大神從出雲國來時以島村岡爲

吳床坐而筌置於此川故號筌戸也。不

入魚而入鹿此取作繪食不入口而落

於地故去此處遷他。

中川里。上。所以名中川者苦編首等

遠祖大仲子息長帶日賣命度行於韓

國出時船宿淡路石屋出。亦時風雨大

類別命之後也。有、即
孝元天皇第八皇子、
船引ハ引船の顛倒、
鵲和名抄、加佐ニ木
と注せれど、既訓蒙字
會ニ見匠たれハ朝鮮
の方言ニ、字鏡集、豆
ニ万奈柱と注し、易林
本節用集、ヤマガラ
ストよめれど、姑、普通
の訓、從ふ塵添、墜囊
抄、此件の事を引け
る、一云を世俗云、
作れり、
細辛、和名抄、美良乃
祢久佐、是ハ加茂山、
生るニ葉葵ニ似たる
草なり、
九部ハ孝昭天皇の後
なり、具字ハ直又首、
どの誤ならむと思へ
ど、姓氏録並拾芥抄、
直等見せざれハ臣の
諺とまべし、

起百姓悉濡干時大仲子以苦作屋天
皇勅云此為國富即賜姓為苦編首仍
居此處故川號中川里
引船山近江天皇出世道守臣為此國
出宰造官船於此山令引下故曰船引
此山住鵲一云韓國鳥栖枯木出穴春
時見出夏不見オヒヌカニケガサ
生人參
細辛昔近江天皇出
世有九部具也是仲川里人也此人買

免寸村古事記下卷、
免寸河之西有一高樹
其樹之影云ニ當夕日
者越高山とあり、此
免寸を扶桑略記、厄
寸、作れり、免ハ厄の
誤として、武、和泉國
和泉郡、夜疑神社、
リ、同郡、八木郷、
ハ厄寸ならむと思へ
ど、厄を假字、用ひた
る例なけれハ、猶考べ
し、
土中得此劍云ニ天智
紀、此歲播磨國司岸
田臣麻呂等獻寶劍言
於狹夜郡人禾田穴内
獲焉、
淨御原朝遊ハ、天武天
皇を申す、
甲申ハ白鳳十三年、

取河内國免寸村人出賣劍也得劍以
後舉家滅亡然後苦編部犬猪圍彼地
出墟主中得此劍主與相去廻一尺許
其柄朽失而其刃不澀光如明鏡於是
犬猪即懷恠心取劍歸家仍招鍛人令
燒其刃、尔時此劍屈申如蛇鍛人大驚
不營而止於是犬猪以為異劍獻出朝
遊後淨御原朝遊甲申年七月遣曾祢

當由。曾根連ハ、姓氏録ニ神饒速日命之後也とあり。安置此里御宅、按子劍の有むり云るハ、在と社あるべきハ、安置としも記せるハ、神體として祭れるなるべし。式ニ天一神玉神とあるハ、天目一神として此劍を祭れるハ、あちぢ、猶多可郡も同神坐ルハ、何れも劍ニ由ある神なり。狹井連、姓氏録ニ佐爲連、速日命六世孫伊香我色乎命之後也。

連磨返送本處于今安置此里御宅此山出邊有李五根至于仲冬其實不落弥加都岐原難波高津宮天皇出世伯耆加具漏因幡邑由胡二人大驕无節以清酒洗手足於是朝遊以爲過度遣狹井連佐夜召此二人。尔時佐夜仍悉禁二人出族參赴出時屢清水中酷拷出中有女二人玉纏手足於是佐夜恠

吾此云ニ、宇奈比賣久波比賣ニ係る詞

美加都岐原ハ身潛の謂なり、今ハ三日月と書けり。雲濃、和名抄ニ宇野今宇根村あり。稱於父心の稱カナフと訓べけれと、然テハ雲濃里テふ義を失へれ、曲てよめり。但中昔の書よりなづくと云、語まぐく見ゆたれハ古言なるべし。

問出答曰吾此服部弥蕪連娶因幡國造阿良佐加比賣生子。宇奈比賣久波比賣亦時佐夜驚出。此是執政大臣出女。即選送出所送出處即號見置山所。溺出處即號美加都岐原。雲濃里。大神出子。玉足日子。玉足比賣命生子。大石命。此子稱於父心。故曰有怒。

完禾和名抄云穴粟
作志佐波と注せり鹿
遇の意々垂仁紀云天
日槍乘艇泊于播磨國
在穴粟邑

鹿字ハ衍れり。
名號の名ハ亦の誤

比治和名抄云比地
作今比地郷と云

里長ムラギミと訓べ
き例なれど姑文字の
儘よよみつ戸令な凡

シホヌマノムラ。コノムラニイヅウシホカレイフシホヌマノムラト
鹽沼村此村出海水故曰鹽沼村。

シサハノアガタユエオホシサハハイワノオホカミシニツクリ
完禾郡所以名完禾者伊和大神國作

カクノヲテノチサカヒコノカハノタニヲ、イデマストキ。オホジカ
堅了以後堺此川谷尾巡行出時大鹿

イカニオノガシタラアリヤダノムラニコニノリタマヒキヤハカレガシタニアリ
出已舌遇於矢田村亦勅云矢彼舌在

トカレイヒシサハノムラトマタイフヤダノムラト
者故號完禾鹿村名號矢田村。

ヒヂノサト。主ハ中。ユエオホシルヒヂトハ。ナニハノナガラ
比治里。所以名比治者難波長柄

トヨサキノスノラミトノミヨウケテイヒホノアガタラツシレサハノアガタラト
豐前天皇出世分揖保郡作完禾郡出

キヤマベノヒヂガサトルサトヲサトヨレリコノヒトノナニカレイフ
時山部比治任爲里長依此人名故曰

戸以五十戸爲里每里
置長一人

ヒヂノサト
比治里

ウハハラノムラアシハラシコヲノミトシシタラトキ。イタヒキ
宇波良村葦原志許乎命占國出時勅

コノクニハセバキコトゴトトムロトノカレイフウハド
此地小狹如室戸故曰表戸。

ヒラミノムラオホカミノヒラビオチキコノムラニカレイフヒラビ
比良美村大神出褶落於此村故曰褶

ムラトイマノヒトイフヒラミノムラト
村今人云比良美村。

カハトムラアマンヒボコノミトヤリシキコノムラニイタヒキカハオドイト
川音村天台捨命宿於此村勅川音甚

タカシトカレイフカハトムラト
高故曰川音村。

ニハトムラ。本名オホカミミヲシモノカレテオヒヌカビ。スナチレン
遊音村。本名大神御粮枯而生糲即令

遊音村式子庭田神社
あり此地。御粮神武紀云嚴倉之

糧とあるは依たり。カ
レヒと訓てハコるし
遊音ハ遊宴の轉略ん。

釀酒以獻遊酒而宴出故曰遊酒村今
人云遊音村。

奪谷葦原志許乎命與天日槍命二神

相奪此谷故曰奪谷以其相奪出由形

如曲葛。

稱春岑大神令春於此岑故曰稱稻春

前栗其糠飛到出處即號糠前。

高屋里所以名曰高家者天日槍

稱春の稱ハ稻の誤

味栗詳なりバ。

高屋和名抄ハ高家ト
作。

衆人以下落字有べし
嗜ハシムとよまむ
ハ常なれど齊明紀ハ
積糸帛兵鐵等於海畔
而令貧嗜と有ナト
ハ通へれむツダミト
訓たり飲出の下ハ故
曰都太川の五字落た
り古歌ハ津太の細江
とよめるハ此地ナリ
柏野和名抄ハ柏野ト
誤ルリ今二十一村を
柏野庄と云

命告云此村高勝於他村故曰高家。

都太川衆人不能得稱鹽村處二出鹹

水故曰鹽村牛馬等嗜而飲出。

柏野里所以名柏野者柏生此野

故曰柏野。

伊奈加川葦原志許乎命與天日槍命

占國出時有嘶馬遇於此川故曰伊奈

加川。

主間今山寄より一里許西にヒチマと云所ありと云り。最ハ最の論。粉色葉字類抄和玉篇等ニレと注し詩陳風ニ東門之粉婆娑其下又和名抄ニ夜仁礼などあり。新撰字鏡ニ粉符分及須木式ニ武藏國都筑郡粉山神社とあるを續後紀十ハ杉山名神ニ作れるを證とす。鐵をマガネとよむ事國典字徵ニ注しつ。羅和名抄ニ之久萬安師和名抄ニ安志ニ作り。冷源氏若紫ニさるべき物つくりてまらせ奉る云ニ同總角ニ松の葉をまきてつとむる山伏たみ云ニ按み

ヒチマノムラ。カムミソツクヒチノウヘニ。カレイフヒチマト。主間村神衣附主上故曰主間。敷草村敷草爲神坐故曰敷草此村有ヤマミナニユケバトサトバカリアリサハフタマチバカリコイサハニオヒリ山南方去十里許有澤二町許此澤生菅作笠最奸生桧粉栗黄連葛等生鐵住狼羆。飯戸阜占國出神炊於此處故曰飯戸阜阜形亦似櫓箕竈等。安師里本名酒主中上大神食於此處

食と云、當れる古言なり。酒加の酒ハ須の誤よをあらじ酒の異株なるべし。安師比賣神此件ノ事書見心此地の國津神。黒葛類聚名義抄ニツラと注せり肥前出雲等の風土記を始古書ニ往見也て筑前風土記ニハ烏葛と記せり同物儀式正殿一字構以黒木云ニ以黒葛結之と有是也東國にてフチと云西國にてシヅラと呼深山ニ生じ色黒く長強蔓草但疑きハ齋宮式ニ曝黒葛七兩と有曝と云事考べし防巳と云る草ニ敷名ある中ツバラと云名もあ

カレイフスカタノキユエホツルヤマモリノサトハヤマベノミ故曰酒加後所以號山守里者山部三馬任爲里長故曰山守今改名爲安師者因安師川爲名其川者因安師比賣神爲名伊和大神將娶詔出介時此神固辭不聽於是大神大瞋以石塞川原。流下三形出方故此川少水此村出山生桧粉黒葛等住狼羆。石作里本名主下中所以名石作者石

播磨風土記下卷 兵庫郡

郡名よて出石よ改たり。故占の占を古事記傳廿四よト、字よ改て引けり。叙紀よ在、字よ作れり。此記よ拖よ作り、或ハ拖よ作り、何れも拖の謠なるべし。神代紀よ波葦の訓注あれど新撰字鏡よ久知奈之と注せるよ従ふ。伊和村、和名抄よ郷名よ出せり、大神ハ式よ伊和坐大名持御魂神社とある是よて、三代實錄貞觀元年從四位下元慶五年正四位下を授奉、百練抄平治元年八月燒亡の事見ゆ記中葦原志許乎命或伊和大神又大神など記せる皆御同神と云於和ハ勞給ふ狀を云

命出黑葛皆落於但馬國故占但馬伊都志地而居出一云大神爲形見植御杖於此村故曰御形。大内川小内川金内川大者稱大内小者稱小内生鐵者稱金内其山生拖杉黑葛等住狼熊。伊和村。本名大神釀酒此村故曰神酒村。又云於和村大神國作訖以後云於

出雲風土記よ御杖衝立而意登語故云意字とあるよ同。於我美ハ下屈の略よて拜みと異ふ。神前和名抄よ神寄よ作加無佐岐と注せり。

和等於我美岐。神前郡右所以號神前者伊和大神出子建石敷命在於神前山乃因神在爲名故曰神前郡。

聖岡和名抄よ埴岡よ作れり、聖ハ埴の古文よて説文よ、以土増大道上とあり。小比古尼ハ、餅磨郡枚野里條よ、少日子根命よ作り、舊事紀よ、少彦根命よ作り、小そ少よ改べし。聖荷ハ土を荷ふためよ構たる物。

聖岡里。生野大川内湯川。粟土下ニ所。以號聖岡者昔大汝命與小比古尼命相爭云擔聖荷而遠行與不下屎而遠行此二事何能爲乎大汝命曰不下屎

小竹皇后紀云小竹此行於の行ハ汗の誤云之祭

姓氏錄佐伯直下譽田天皇爲定國塚車駕巡幸到針間國神壽郡瓦村東崗上とあるハ此巡幸のをりや爲聖云ニ聖ハ練たる

欲行小比古尼命曰我持聖荷欲行如
是相争而行出逕數日大汝命云我不
能忍行即坐而下屎出尔時小比古尼
命咲曰然苦亦擲其聖於此罔故號聖
罔又下屎出時小竹彈上其屎行於衣
故號波自加村其聖與屎成石于今不
亡一家云品太天皇巡行出時造宮於
此罔勅云此主爲聖耳故曰聖罔所以

土を云

粟鹿山和名抄但馬國朝來郡名粟鹿安波加式は粟鹿神社異俗の上は有字を脱せり此は異俗何のたため記せるう詳ならを次なるもおれじ

川邊今村名は存れり勢賀今瀬賀は改上下二村に分たり

號生野者昔此處在荒神半致往來出
人由此號死野以後品太天皇勅云此
爲惡名改爲生野所以號粟鹿川内者
彼自但馬阿相郡粟鹿山流來故曰粟
鹿川内生大川内因大爲名生檜杉又
許湯川昔湯出此川故曰湯川生檜杉
在異俗
川邊里勢賀川主中下此村居於川邊

播磨風土記下卷 神壽郡

十一

約出はセガムとよむ
べし此語十訓抄とよ
むく見返たり古言
星出詳ならざ強按
薄暮の頃を云うあり
らバ星肆ハ星闇の意
高岡和名抄と洩たり
神前山與上同との郡
名の條と傳あるを云
不知其由ハ奈具佐山
と云る由をあらざと
なり
多馳和名抄と洩せり
佐伯部仁徳紀と播磨
佐伯直阿能胡姓氏
録と佐伯直景行天皇
皇子稻背入彦命之後
也男御諸別命雅足彦
天皇御代中分針間國
給之仍號針間別男阿

故號川邊里所以云勢賀者品太天皇
狩於此川内猪鹿多約出於此處故
曰勢賀所以云砥川山者彼山有砥故
曰砥川山至于星出狩致故山名星肆
高岡里神前山奈主中ニ右云高岡者
此里有高岡故號高岡神前山與上奈
具佐山生檜不
多馳里邑曰野ハ千主中下所以號多

良都命譽田天皇爲定
國郡車駕巡幸到針間
國神壽郡瓦村東崗上
于時青菜葉自崗邊川
流下天皇詔應川上有
人也仍差伊許自別命
往問即答曰已等是日
本武尊平東夷時所傳
蝦夷之後也云云詔曰
宜汝爲君治之即賜氏
針間別佐伯直姓也爾
後至庚午年脫落針間
別三字偏爲佐伯直と
有是ハ此國と關れる
古傳な川バくなくし
く引たれど全文と
あらむ
新次式と新次神社
意保和知詳ならむ
邑田の田ハ曰の誤
梗岡栗郡奪谷條な
る糠前も梗前も作り
賀茂郡糠岡など總て
又カとよむべし新撰

馳者品太天皇巡行出時大御伴人佐
伯部等始祖阿我乃古申欲請此主
時天皇勅云直請哉故曰多馳所以云
邑曰野者阿遲須伎高日古尼命神在
於新次神社造神宮於此野出時意保
和知苺廻爲院故名邑田野粳岡者伊
和大神與天日杵命二神各發軍相戰
亦時大神出軍集而春稻出其粳聚爲

字鏡ニ粒俗作稗稻也
奴可と注し、續紀の人
名ノ阿倍朝臣、稗虫、又
紀表、邨臣之女、稗女な
ど、枚舉、違あらざり、
御俗の俗ハ、伴の誤、
と思へど、世ニ借てよ
むべし、隋ハ、隨の誤、
ハ、造の誤なるべし、
三家以下、落字ありと
見ゆ。

御陰ハ、御冠なる事、
磨郡安相里條の標注
ニ云き、
磨布理許、詳なり、
按、真振來、其ハ、
を振て拂ひ、來つと

丘一云掘城處者品太天皇御俗參度
來百濟人等隋有俗造城居出又其數
置粳云墓又云城牟礼山其孫等川邊
里三家人夜代等所以云八千軍者天
日旌命軍在八千故曰八千軍野
陰山里陰岡主中下云陰山者品太天
皇御陰墮於此山故曰陰山又號陰岡
介除道刃鈍仍云磨布理許故云磨布

云事なるべし明日香
井集夕附日けふ紅
のまふりてふ色む涙
や色も出らむと云マ
フリも紅色を兼て眞
振手とハ云る、
伊與都比古神式、
豫國伊豫郡伊豫豆比
子命神社、
的部和名抄、
以久波止古路と注し、
筑後國郡名生葉、
波とあるハ、
見逃たる的、
なるよて的をイ、
と訓事を知べし、
の氏祖の事ハ、
詳な札バ、
玉依比賣命、
天皇の御母、
土記等、
高野社、
子隠れたるハ、

リムラトイフカブトヨカトハ
理村云胄岡者伊與都比古神與宇知
賀久牟豐富命相鬪出時胄墮此岡故
曰胄岡
的部里石坐神山主中ニ右的部等居
於此村故曰的部里云石坐神山者此
山戴石又在豐穗命神故曰石坐神山
云高野社者此野高於他野又在玉依
比賣命故曰高野社
播磨風土記下卷 神寄郡多可郡 十三

普郡中を搜りて頭し奉
らまほしき業
槐社の社字よみえむ
社の誤ら然らば古字
書よヤマナシともユ
ヅリハともよみて槐
と二種
託賀和名抄多可
作れり高者ハ天ニ所
謂天なめれば此大
人ハ決て人ハあり
じ神まぞ坐けむ踏む
日本靈異記不牟と
注せり
賀負和名抄賀美
作れり此郡郡那珂資
母の二郷あれど此記
に見る即上中下
て諸國は例あり
大海オホミと訓べけ
れど爰は明石郡大海
里とあるハ和名抄
邑美と作り於布美と
注せるは據れり

託賀郡右所以名託賀者昔在大人常
勾行也自南海到北海自東巡行出時
到來此主云他主卑者常勾伏而行出
此主高者申而行出高哉故曰託賀郡
其踰迹處數ニ成沼
賀負里カミノサト大海山オホミヤマ主上下右因居川上為
名所以號大海者昔明石郡大海里人
到來居於此山底故曰大海山オホミヤマ所以

盟酒ハ祈事ありて神
よ申て造る酒を云

號荒田者此處在神名道主日女命无
父而生兒為出釀盟酒作田七町七日

令養の養ハ饗の誤な
るべし
天日一命式は天目一
神社と有日ハ目の誤
知其父の事上代
ハ常ありけむ山城
風土記にも見ゆ
荒田村和名抄は荒田
郷式は荒田神社

一命而奉出乃知其父後荒其田故號
荒田村アラタムラ
其子捧酒而令養出於是其子向天日

奥津島比賣命ハ多紀
理毘賣命ハ
任ハ妊の誤古事記ハ

為名云袁布山者昔宗形大神與津島
黑田里クロダノサト袁布山支閉ヲカオホヤマシノヘ主上下右次主黑
為名云袁布山者昔宗形大神與津島

大國主神娶坐宵形與
津宮神多紀理毘賣命
生子云云
侍訖の侍ハ時の誤ラ
月盡古言之万葉五
吉倍由久等志乃同十
五日月日毛伎倍奴云
ニ此伎倍を盡こと志
ラて來經てふ事見
て朝介食余なと云ケ
を來經の切と云るは
云よたらぬ僻説ニ總
て反切の格ハ音韻啓
蒙論におきつ
老女和名抄ニ姫老女
之稱也於無奈
都麻和名抄ニ洩たり
味の轉ニ

比賣命任伊和大神出子到來此山云
 我可產出侍訖故曰袁布山云支閉丘
 者宗形大神云我可產出月盡故曰支
 閉丘云大羅野者昔老夫與老女張羅
 於袁布中山以捕禽鳥衆鳥多來負羅
 飛去落於件野故曰大羅野
 都麻里都多支比也山比也野鈴堀山
 伊夜丘阿富山高瀬目前和余
 布多岐阿主下上所以號都麻者播磨
 多加野

都麻ハ有味と音通フ
 冰上和名抄ニ丹波國
 氷上郡氷上郷比加美
 とあるニ據てよみつ
 建石命ハ建石敷命の
 略ラ神前郡の條ニ伊
 和大神の御子と有
 我其の其ハ甚の誤な
 るべし

刀賣與丹波刀賣堺國出時播磨刀賣
 到於此村汲井水而食出云此水有味
 故曰都麻云都太岐者昔讚伎日子神
 詛冰上刀賣余時冰上刀賣答曰否日
 子神猶強而詛出於是冰上刀賣怒云
 何故詛吾即雇建石命以兵相鬪於是
 讚伎日子負而還去云我其怯哉故曰
 都多岐云比也山者品太天皇狩於此

翼人ハ、揖保郡伊刀島條も見えて、何れもカリビトと訓おきつ韻書ハ翼、與職切音ヤとあれバ、ヤ人の音を借たる。今按み、周禮秋官ハ、妻氏掌、攻猛鳥とありて、翼、讀爲、翅翼之翅、と注せり。ハ、ハ、翼人も、是氏も、同義なる事を知べし。

麻奈志漏ハ、眞之白シ犬ノ名ある事、垂仁記ニ有、犬名曰足往とあるをぞじめ、志、ぞく、書ニ見、今も然リ。

荷宗の宗ハ、家の誤なるべし。

山一鹿立於前鳴聲比也。天皇聞出即

止翼人故山者號比也。山野者號比也。

野鈴堀山者品太天皇巡行出時鈴落

於此山雖求不得乃堀土而求出故曰

鈴堀山伊夜丘者品太天皇搗犬

與猪走上此岡天皇見出云射乎故

曰伊夜丘此犬與猪相鬪死即作墓葬

故此岡西有犬墓阿富山者以勅荷宗

目前田ハ、目割田ニ此次ハ、和介布多岐の傳を脱せり。

阿多岐ハ、猪の怒狀ニ古事記雄略天皇御世の件ハ、猪怒而宇多岐依來故天皇畏其宇多岐云ニ夜美斯志能宇多岐加斯古美とあるト同語ニ法太、和名抄ニ脱せり。

遂神代紀の訓ニ従ふ

故號阿富云高瀬村者因高川瀬爲名

目前田者天皇搗犬爲猪所打害目故

曰目割阿多加野者品太天皇狩於此

野一猪負矢爲阿多岐故曰阿多加野

法太里波山主上下所以號法太者

讚伎日子與建石命相鬪出時讚伎日

子負而逃去以手匐去故云匐田甕坂

者讚伎日子逃去出時建石命逐此坂

冠をミカゲとよむ事
前件は志むく見事
塚國の上落字あり

花波之神賀茂郡川合
里條と花浪神と作れ

賀毛郡和名抄と賀茂
と作れり國造本紀
針間鴨國造とあり此
地と

下鴨和名抄と脱せり
穂て同郡郷の名の上
下に分れたるハ大方

ハ上ツ其下ツ某と云
べき例なれど又然と
まざるもあれバ姑よ
まざる例も習ふ詳於
上ハ郡名の下の傳あ
るを云
於居の於ハ條布の上
よありけむを誤て爰
よ書入しならむ
當麻ハ和名抄と大和
國葛下郡の郷名とて
同郡よ品遲郷もあり
古事記垂仁御件と定
品遲部と有垂仁紀と
品遲部雄鯉と云人見

云自今以後更不得入此界即御冠置
此坂一家云昔丹波與播磨塚國出時
大甕堀埋於此土以為國境故曰甕坂
花波山者近江國花波出神在於此山
故因為名

賀毛郡所以號賀毛者品太天皇出世
於鴨村雙鴨作栖生卵故曰賀毛郡
上鴨里 上中下鴨里 右二里號鴨

里者已詳於上但後分為二里故曰上
鴨下鴨所以品太天皇巡行出時此鴨
發飛於居條布井樹此時天皇問云何
鳥哉侍從當麻品遲部君前玉答曰住
於川鴨勅今射時發一矢中二鳥即負
矢從山岑飛越出處號鴨坂落斃出處
者仍號鴨谷煮羹出處號煮坂下鴨里
有碓居谷箕谷酒屋谷此大汝命造碓

條布和名抄と脱せり。條ハ修の誤なるべし。没ハ没ん。没ハ没みて仁徳紀に没水而死云。

白横ハ白鹿の誤なるべし。景行紀に以蘇彈白鹿仁徳紀に獲白鹿乃還之獻于天皇。

稻春出處號碓居谷箕置出處者號箕

谷造酒屋出處者號酒屋谷

條布里。中。所以號條布者。此村有井

一女汲水即被吸没故號條布。

鹿咋山右所以號鹿咋者。品太天皇狩

行出時白横咋已舌遇於此山故曰鹿

咋山。

品遲部村右所以號然者。品太天皇出

世品遲部等遠祖前玉所賜此地故號

品遲部村。

三重里。中。所以云三重者。昔在一女

拔竊以布裹食三重居不能起立故曰

三重。

榑原里。中。所以號榑原者。柞生此村

故曰柞原。

伎須美野。右號伎須美野者。品太天皇

縮ハ字書に見ゆ。是ハ筥の誤。筥ハ平他字類抄にワカタケト注せれバ。筥字は通し書しならむ。三重居ハ古事記倭建命の御件。吾足如三重。夕而甚疲とある。同。榑原和名抄に脱せり。榑ハ常ニナラとよみ。柞ハハ、ソと訓ならへるを。新撰字鏡に。榑を波ニ曾と注し。柞を奈良乃木と注せれバ。何れもよみても妨な

きよ似たれど和名抄
大和國葛上郡郷名
稍原奈良波良と注せ
るは倣て柞字をも然
よみつ
伎須美野今來住村あ
りとぞ喚ハ喚の誤な
るべし積底の積ハ音
を借たるはえあらず
益金觀箱などのキよ
て音訓暗合の字心

春稻ハ今云勅を春を
上代も然云り催馬樂
篠波ハあし原の以名
川支加仁乃玉葉集よ
古よ今をくらぶの里
人て代ニを越たるみ
しぬをそつく麻牧令
よ稻三升と有
意奚ハ仁賢袁奚ハ顯

出世大伴連等請此處出時コホトモノムラシヲ。コヒシコノトコロヲ。メシクニノミヤツコヲ國造黑
田別而問地狀ワケヲ。テトヒテラクニ。ガクヲ。ニトキマヲシキ。ヌルハ。コロモヲ。ゴトトイルガ。キノ尙時對曰縫衣如藏ニ積
底故曰伎須美野スニ。カレ。イフ。キ。ス。ニ。ヌト。
飯盛嵩右所以號然者大汝命出御飯イヒ。モリ。ダケ。ミギ。ユ。エ。イハル。シカ。ハ。オホナムチノミト。ノ。イヒ。ヒ。
盛於此嵩故曰飯盛嵩モリ。キ。コノ。ダケ。ニ。カレ。イフ。イヒ。モリ。ダケト。
稗罔右號稗罔者大汝命令春稻於下ヌカ。フカ。ミギ。ニ。イハル。ヌカ。ヲカト。ハ。オホナムチノミト。シメ。ハ。ツカ。イホヲ
鴨村散稗飛到於此罔故曰稗罔ガ。モ。ム。ラ。ニ。キ。リ。テ。ヌカ。ト。ビ。キ。タリ。キ。コノ。ヲ。カ。ニ。カレ。イフ。ヌカ。ヲ。カト。
玉野村所以號然者意奚袁奚二皇子タマ。ノ。ム。ラ。ユ。エ。イハル。シカ。ハ。オ。ケ。ケ。ヲ。ケ。フ。タ。ミ。コ。

宗天皇を申

根日女老云ニ是ハ雄
略天皇の御世の赤猪
子の古事ヲ殆似たり
長逝ハ死る事を云。扱
根日女の身まうりし
ハ二皇子京子還まし
て後よや

起勢和名抄ハ脱たり
起ハ假名よ用たる例
なけれハ巨字の誤な

等坐於美囊郡志深里高宮遣山部小
楯詔國造許麻出女根日女命於是根
日女已依命訖尔時二皇子相辭不娶
于日間根日女老長逝于時皇子等大
哀即遣小立勅云朝日夕日不隱出地
造墓藏其骨以玉飭墓故緣此墓號玉
丘其村號玉野
起勢里主下中コ。セ。ノ。サト。主。ハ。中。ノ。ヒ右號起勢者巨勢等ヨギ。ニ。イハル。コ。セ。ト。ハ。コ。ト。モ。

播磨風土記下卷 賀茂郡

るべし。

播磨出國の出字ハ衍

居於此村仍爲里名。鼻江右號鼻江者

品太天皇出世播磨出國田村君在百

八十村君而已村別相鬪出時天皇勅

追聚於此村悉皆斬死故曰鼻江其血

黑流故號黑川。

山田和名抄云洩せり

山田里猪飼野右號山田者人居山際

遂田の上下落字あり

遂田爲里名。

肥人朝戸君和名抄云肥後國益城郡名麻部有是益城ハ日向

猪飼野右號猪飼者難波高津宮御宇

上塚ひ上代ハ彼日たり迄日向と云し故日向肥人ト云リ姓

天皇出世日向肥人朝戸君天照大神

氏錄未定雜姓朝戸百濟國人曾廣使主朝戸之後と有

坐舟於猪持參來進出可飼所求申仰

天照大神式ニ揖保郡粒坐天照神社申下なる仰ハ衍字

仍所賜此處而放飼猪故曰猪飼野。

端鹿和名抄云洩たり今在其神ハ猪飼野云書つゞけしが離れたるためり

端鹿里上今在其神右號端鹿者昔

神於諸村班菓子至此村不足故仍云

間有哉故號端鹿此村至于今山木無

菓子生真木。

穗積里本名鹽野主下上所以號鹽野

播磨風土記下卷 賀茂郡

〇三

穂積臣、姓氏錄に、伊香賀色雄命、男大木口宿禰之後也。

無、目とハ廣、一目に見ゆるを云。

佐ニ御井、古歌に、ま井とよめるハ是ク、愛き小目の篠葉、霰降霜降とも勿、掛ぬ小目の篠葉。

者。鹹水出此村。故號鹽野。今號穂積者。

穂積臣等族居於此村。故號穂積。

小目野。右號小目野者。品太天皇巡行。

出時宿於此野。仍望覽四方。勅云彼觀。

者。海哉河哉。從臣對曰。此霧也。亦時宣。

云。大體雖見無小目哉。故曰小目野於。

是從臣開井。故云佐ニ御井。又因此野。

詠歌。宇都久志伎乎米乃佐ニ波。亦阿。

良礼布理志毛布留等毛。奈加礼曾祢。

袁米乃佐ニ波。

雲潤里。土中。右號雲潤者。丹津日子神。

法太出川底。欲越雲潤出方。云亦出時。

在於彼村。太水神辭云。吾以穴血佃。故。

不欲河水。亦時丹津日子神云。此神倦。

堀河事云。亦而已。故號雲弥。今人號雲。

潤。

雲潤、和名抄に脱たり、この雲潤を如此よみて、あれど潤ハ韻鏡十八轉稗字の所屬、て奈行の韻なれ、雲弥の轉じて、ウズニトハよみ難し、猶よく考べし。云亦、この件は二所ありて、外は如此書ける例なし。

河内、和名抄、川内、
作。

住吉大神ハ、式ニ長門
國豐浦郡住吉坐落御
魂神社、筑前國那珂郡
住吉神社ト有、此ニ坐
の中なるベシ、然ラズ
ルバ、上坐ト云、叶
を、又此郡、和名抄
住吉郷あり、式ニ住吉
神社坐るも、此件ノ事
ニ依テ祭れるなるベ
シ、然ラズ賀吉郡明石郡
ニ住吉郷ありテ、和名
抄、須美與之ト訓注
あれバ、然ラズむべき理
なレド、猶古訓ニ從
ぬ。

已夫万葉九子類已妻

河内里。主中。右因川為名此里出田不

敷草下苗子。所以然者住吉大神上坐

出時食於此村亦從神等人蒞置草解

散為坐尔時草主大患訴於大神判云

汝田苗者必雖不敷草如敷草生故其

村田于今不敷草作苗代。

川合里。主中。上。右號川合者。端鹿川底

與鴨川會村故號川合里。

離而同行者。已夫之

妾和名抄、妾非正嫡

故以接為稱、和名乎無

奈女。

五藏、和名抄、肝心脾

肺腎とのみ有、訓を

洩せり是ハ各其名あ

孔、五藏と總、云名を

たり、大同類聚方、

奈可和太と云、るハ藏

府を總云りと聞ゆれ

腹辟沼。右號腹辟者。花浪神出妻淡海
神為追已夫到於此處遂怨瞋妾以刀
辟腹没於此沼故號腹辟沼其沼鮒等
今无五藏。
美囊郡所以號美囊者昔大兄伊射報
和氣命堺國出時到志深里許曾社勅
云此主水甚美哉故號美囊郡。
志深里。主中。所以號志深者伊射報和

志深和名抄子之ニ美
と注し紀子縮見と作
れり
信深貝和名抄子現見
之ニ美如比万葉六
住吉乃粉漬之四時美
開蒸不見
御飯管古代の状仰見
べし
和那散式阿波國那
賀郡和奈佐意富曾神
社
於奚袁奚の皇子等の
御事ハ顯宗天皇前紀
ニ詳ニ市邊天皇ハ市
邊御羽皇子にて履中
天皇の御子ハ天皇と
稱申ハ倭建命を常陸
風上記ハ天皇と申せ
り准知べし
推綿野の推ハ維の誤
ラまたシダシともよ
めバ妨なし雄略紀
ハ來田綿故屋野とあ

ケノミコト。ミラシ、
氣命御食於此井出時信深貝遊上於
御飯管緣亦時勅云此貝者於阿波國
和那散我所食出貝哉故號志深里於
奚袁奚天皇等所以坐於此主者汝父
市邊天皇命所致於近江國推綿野出
時率日下部連意美而逃來隱於惟村
石室然後意美自知重罪乘馬等切斷
其筋遂放出亦持物按等盡燒廢出即

り古事記も同く此
來田を久多と作れり
日下部連意美顯宗紀
ハ帳内日下部連使主
と作れり
石室顯宗紀ハ縮見山
石室と有万葉三ノ皮
爲酢寸久米能若子我
伊之家留三穂乃石室
雖見不飽鴨此歌の
詞書ハ紀伊國とある
ハおぼつらなし顯宗
紀ハ弘計王更名來目
稚子とあるハ此所の
石室なるべし
伊等尾紀ハ逸せり
多良知志伎詳ならざ
吉備鐵ハ古今集ハま
うねふく吉備の中山
云ニ
由打の由ハ田の誤
投坐遊仙窟ハ欲投娘
子片時停歇
御足末繼體紀ハ枝孫

ワキテシニシリキ。コニ
經死出亦二人子等隱於彼此迷於東
西仍志深村首伊等尾出家所役也因
伊等尾新室出宴而二子等令燭仍令
舉誅辭亦兄弟各相讓乃弟立詠其辭
曰多良知志伎吉備鐵使整持一如由打
手拍子等吾將爲儻又詠其辭曰淡海
者水隔國倭者青垣山投坐市邊出
天皇御足末奴良麻者即諸人等皆畏

をよめり、奴良麻云、麻ハ助辭、紀ノ弟日儀と有、領、和名抄ノ國曰守郡、曰領皆加美とあれど、西宮記ノ大領、古保乃見ヤツコ、少領、瓜ナイミヤツコと注し、孝徳紀、國造郡領と有、從、山部連少楯、少ハ小ト作べし、紀ノ山部連先祖伊與來目部小楯、手白髮命、仁賢天皇の女、此二皇子の御母、蟻臣、女、薨、嫁、なれ、母、を、伯、母、忍、海、命、の、誤、なる、事、ある、し、紀、ハ、此、命、を、二、皇、子、の、御、姉、子、傳、た、れ、ど、今、古、事、記、よ、り、て、論、ふ、或、人、云、啓、の、誤、ハ、古、き、啓、字、と、ぞ、

走出、ハ、針、間、國、出、山、門、領、所、遣、山、邊、連、少、楯、相、聞、相、見、語、云、爲、此、子、汝、母、手、白、髮、命、晝、者、不、食、夜、者、不、寢、有、生、有、死、泣、戀、子、等、仍、參、上、碓、如、右、件、即、歡、哀、泣、還、遣、少、楯、召、上、仍、相、見、相、語、戀、自、此、以、後、更、還、下、造、宮、於、此、主、而、坐、出、故、有、高、野、宮、少、野、宮、川、村、宮、池、野、宮、又、造、倉、出、處、即、號、御、宅、村、造、倉、出、處、號、御、倉、尾、

高野宮、次、高野里あり、件、の、宮、ハ、還、幸、前、なる、事、紀、見、也、たり、倉、ハ、屯、倉、と、有、べし、高野、和、名、抄、多、加、乃、祝、田、式、楯、保、郡、祝、田、神、社、玉、帶、志、比、古、佐、用、郡、引、舟、一、條、大、神、之、子、玉、足、子、玉、足、比、賣、命、と、ある、是、ん、大、稻、女、神、詳、なら、む、帶、志、比、賣、ハ、神、功、皇、后、なる、べし、豐、稻、女、ハ、三、代、實、錄、貞、觀、二、年、十、一、月、授、河、内、國、從、五、位、下、豐、稻、賣、神、正、五、位、下、と、ある、同、神、なる、べし、坐、於、志、深、の、上、有、べし、三、坂、ハ、式、同、郡、御、坂、神、社、八、戸、挂、云、ニ、考、な、し、

高野里坐於祝田社神玉帶志比古大稻女帶志比賣豐稻女志深里坐於三坂神八戸挂須御諸命大物主葦原志許國堅以後自天下於三坂岑吉川里所以號吉川者吉川大刀自神在於此故云吉川里枝野里因體爲名高野里因體爲名

志許下平字を脱せり。
吉川和名抄に與加波
枝野の枝ハ枚の誤な
るべし和名抄に平野
比良乃

右播磨風土記以或家古卷令寫之當時出
雲豐後之外諸國風土記逸於後人擬作
者餘國猶有最可謂
奇珍矣

寛政八年六月廿六日

同日令一校而所ニ有不
審重以正本可校者也

正二位藤原紀光

明石郡逸文

釋日本紀述義云播磨風土記曰明石

驛家駒手御井者難波高津宮天皇出

御世楠生於吉朝日蔭淡路島夕日蔭

大倭島根仍伐其楠造舟其迅如飛一

檝去越七浪仍號速鳥於是朝夕乘此

舟爲供御食汲此井水一旦不堪御食

出時故作歌而止唱曰住吉出大倉向

於吉の吉字を万葉緯
に井只に改引けり按
よ吉ハ井上を一字に
誤合たるう日本紀纂
疏に引ける風土記に
明石驛家有一井楠樹
其上と有是ハ略て
引たる文ハあれど
其上ハ井上を換たる
なるべし
朝日云ニ明石の地理
を推し淡路ハ正南恥
東よふれたれハ朝日
に蔭刺べき方よあら
ど是ハ同御世の古事
を古事記に免寸河之
西有一高樹之影云ニ
を誤語傳たるなるべ
し
速鳥續紀にハ船名播
磨速鳥並叙從五位下

其冠者各以錦造入唐使所乘者也とあるハ此件ノ古事ニよりテ名づけしならむ。住吉和名抄ニ明石郡住吉須美與之とある此地マテ大倉ハ今大倉谷と云所あり是ニ云因ノ因ハ目ノ誤なるべし。命下者ハ著ノ誤リ。出善驗而ノ而ハ下ノ以舟浪ヘ係れり。八尋梓根ノ根ハ加たニ續紀ニハ獻杜谷樹ハ尋梓根後世記ニ以比ニ羅木乃ハ尋梓根云ニ是ハ底附と云ニ掛れる序ク。底不附とハ無限遠キ國を云。越賣眉引ハ仲衣紀ニ如美女之跡とある是マテ遠山ノ幽ニ見ゆ

而飛者許曾速鳥云因何速鳥云ニ。

不知何郡逸文

又同云息長帶日女命欲平新羅國下

坐出時禱於衆神余時國堅大神出子

余保都比賣命者國造石坂比賣命教

曰好治奉我前者我余出善驗而比

良木八尋梓根底不附國越賣眉引國

玉甲賀ニ益國苦尻有寶白衾新羅國

る状を云。玉甲八玉を磨き整たる状を云。昔尻有寶の四字考なし日本紀通證ニ昔を若よ改め若尻とよみたるハ如何。白衾仲衣紀ニ袴衾ニ作記リ其織たる布のさき故よ義を以て白衾と書けり。丹浪ハ舟浪の誤なるべし。平伏賜を原本平賜伏とあるハ決て誤なめ川ハ今改つ。舟裳ハ記傳ニ後世幕の類なるべしと云リ。通證ニ舟裳ニ改たり。藤代ハ海部有田ニ郡の堺ニありて管川モ其邊ニありと或書ニ云ルハ余保都比賣命ハ式子伊都郡丹生都

矣以丹浪而將平伏賜如此教賜於此
出賜赤土其土塗天出逆鉾建神舟出
舳舳又染御舟裳及御軍出著衣又攬
濁海水渡賜出時底潛魚及高飛鳥等
不往來不遮前如是而平伏新羅已訖
還上乃鎮奉其神於紀伊國管川藤代
出峯

比女神社とある是より海部郡とい遷り隔れり猶土人よ問へしこの比賣神ハ大神之子とあれハ大國主神の御子なるを諸神記ハ伊弉諾伊弉册之御娘と記せり

追次て云

每里下に土上中或は下中などあり是は其地の沃墾より定めたるのにて外籍よを然る例禹貢に見えたり

如古郡比禮墓條よ赤石郡厨御井云ニ東雅よシリを黔色也ヤを屋也烟火のため薰り黒き屋なればかく云くと云は如く煮焚まる處の名の上代を供御の魚類野菜等進は地をミシリヤと云ひしゆゑ京近き國ニあるは地名おほり類聚國史天長八年五月停止河内國供御堤外赤江堤内赤江二處云ニ是ハ川魚を進りし御厨にて河内國よも其名存れり西宮記よ内膳御厨別當

筑摩長と記せり別當ハ御厨の長官にて筑摩は近江國の地名く彼地より御贄を進りし事三代實錄四十八よ見たり扶桑略記延長二年二月十四日條よ停廢高砂御厨魚令供精進物とあは高砂ハ加古郡之上代播磨國より供御の物を進りしハ一所のみならず

佐用郡速湍里條に速湍社坐神廣比賣命故那都比賣弟云ニ當郡に佐用都比賣神社と天一神玉神社の外を式よ見よむかむり神名まで著れたは舊社の埋果つるは甚ニ歎べき業ハ廣姫を繼體天皇の妃よ同名二人あり敏達天皇の皇后にも同名見ゆれど其ちふをあらじ那都比賣ハ

仁賢天皇の御姊ふして、紹運録ふ載たれば、廣比賣ハ其御弟に坐て、史ふ洩たふならむ。此姫命の播磨國に下り給ふを、御兄弟の由縁あれども、記中郡字はアガタと訓べし。郡より縣を、狹きものにして、郡縣と次第を、支那國の制ふて、我古よあらむ皇國にてハ郡も縣も差別なく總てアガタと訓來れり。續紀二ノ縣、犬養連大侶と云人を一本に郡、犬養ふ作れり。祝詞式、倭六御縣と記せば、今見よあは六郡名、猶此例おほかり、委ハ郡名私考に記せり。此郡字をコホリとよめるは、朝鮮の方言なれば、正訓ふあらむ。其を類合又訓蒙字會等に見ゆたり。

此記に、某郷と云べきを、某里と記せり。戸令ハ凡戸、以五十戸爲里、義解ハ若滿六十戸者、割十戸立一里とあり。出雲風土記、意宇郡、郡郷條ハ郷字者、依靈龜元年式、改里爲郷とあり。此記ハ靈龜已前ニ撰びし事と、揖保郡、狹野村、條ハ川内國泉郡とあるを、和泉國いまだ分立せざりし前なは事を、併見ふべし。抑風土記ハ、元明天皇、和銅六年五月二日に、畿内七道諸國郡郷名、著好字、其郡内所生銀銅彩色、草木禽獸魚虫等、具錄色目及土地沃瘠、山川原野名號所由、又古老相傳、舊聞異事、載于史籍言上と布告し給ひし時、この記をハ編緝して進りし事論なし。其他國ニのも往ニ作り

しもあり又遲滞せしと多かりけむ醍醐天皇延
長三年十二月十四日に至り再撰録の官符下り
し事朝野群載ふ見込たり猶この風土記に關か
ふ事どもと委諸國風土記考ふ論ひたけり
美囊郡志深里の條に近江國推綿野云に顯宗紀
に來田綿蚊屋野とあり是ハ近江國蒲生郡日野
村の古名を綿向と云其地は綿向神社あり其邊
ふ北畑と云地あり來田綿の轉ならむと土人は
云り其地は御墓と稱ふ所ありまた其より二
十丁許東音羽村に古墳あり押羽皇子改葬の地
なりと傳云り此地の事古事記傳ふも定めえざ
れば聞えたは儘をあるを

同郡同條高野宮少野宮川村宮池野宮とあるハ
顯宗元年紀の細字小或本云弘計天皇之宮有二
所焉一宮於少野二宮於池野仁賢元年紀の細字
小或本云億計天皇之宮有二所焉一宮於川村二
宮於縮見高野其殿柱至今未朽とあるを書紀の
注者右の宮號を悉大和國に説つけたるハ大く
誤れり

此風土記ハ安政元年の春京師なほ學友ら或家
小秘もたるを辛して取出しを予と寫しとりて
釋紀述義日本紀纂疏仙覺万葉抄詞林採要塵添
堪囊抄等より引け依に讀み比べ訓を附て此標注
をハ書出つ其を我家塾に物志、播磨國人らに

Handwritten text in a cursive script, likely a form of shorthand or a specific dialect. The text is arranged in approximately 10 horizontal lines within a rectangular frame.

Handwritten text in a cursive script, likely a form of shorthand or a specific dialect. The text is arranged in approximately 10 horizontal lines within a rectangular frame.

て 漢・西・東・南・北 五國の 人
古 漢・西・東・南・北 五國の 人
功 漢・西・東・南・北 五國の 人
く 漢・西・東・南・北 五國の 人
功 漢・西・東・南・北 五國の 人
く 漢・西・東・南・北 五國の 人
功 漢・西・東・南・北 五國の 人
く 漢・西・東・南・北 五國の 人

功 漢・西・東・南・北 五國の 人
く 漢・西・東・南・北 五國の 人
功 漢・西・東・南・北 五國の 人
く 漢・西・東・南・北 五國の 人
功 漢・西・東・南・北 五國の 人
く 漢・西・東・南・北 五國の 人
功 漢・西・東・南・北 五國の 人
く 漢・西・東・南・北 五國の 人

新編新潟縣史
 卷之八
 新編新潟縣史
 卷之八
 新編新潟縣史
 卷之八
 新編新潟縣史
 卷之八
 新編新潟縣史
 卷之八



明治二十年七月十一日御届
 全 年八月廿八日出版

定價金九拾錢

注釋人

大坂府平民

敷田年治調

河内國茨田郡門真村百六十壹番地

出版人

愛媛縣平民

石丸忠胤

越後國新潟區田中町廿八番戶寄留

發兌所

新潟縣新潟區田中町

玄同舎



賣弘書肆

東京日本橋通二丁目	北畠茂兵衛	薩州鹿兒島仲町	吉田源太郎
全 淺草廣小路	淺倉久兵衛	尾州名古屋本町通七丁目	片野東四郎
全 芝三島町	山中市兵衛	備前岡山中之町	森禎藏
全 橘町四丁目	皇典出版舎	播州明石郡仲町	藥師寺卯一郎
西京御幸町姉小路上	藤井孫兵衛	全 加古郡寺家町	前田得三郎
全 上京區廿八組町頭町	池村久兵衛	全 飾東郡姫路俵町	山野長平
全 寺町通四條上	田中治兵衛	全 米田町	本庄輔二
全 三條通寺町西入	杉本甚助	全 揖西郡龍野龍町	長野治吉郎
大坂心齋橋博勞町角	岡田茂兵衛	全 赤穂郡赤穂加屋町	山田松江
全 心齋橋筋安土町南入	鹿田靜七	越後古志郡長岡	目黒十郎
全 南久寶寺町四丁目	前川善兵衛	全 新潟古町通六番町	佐藤庄八
全 心齋橋北久太郎町	柳原喜兵衛	全 東中通一番町	小林二郎

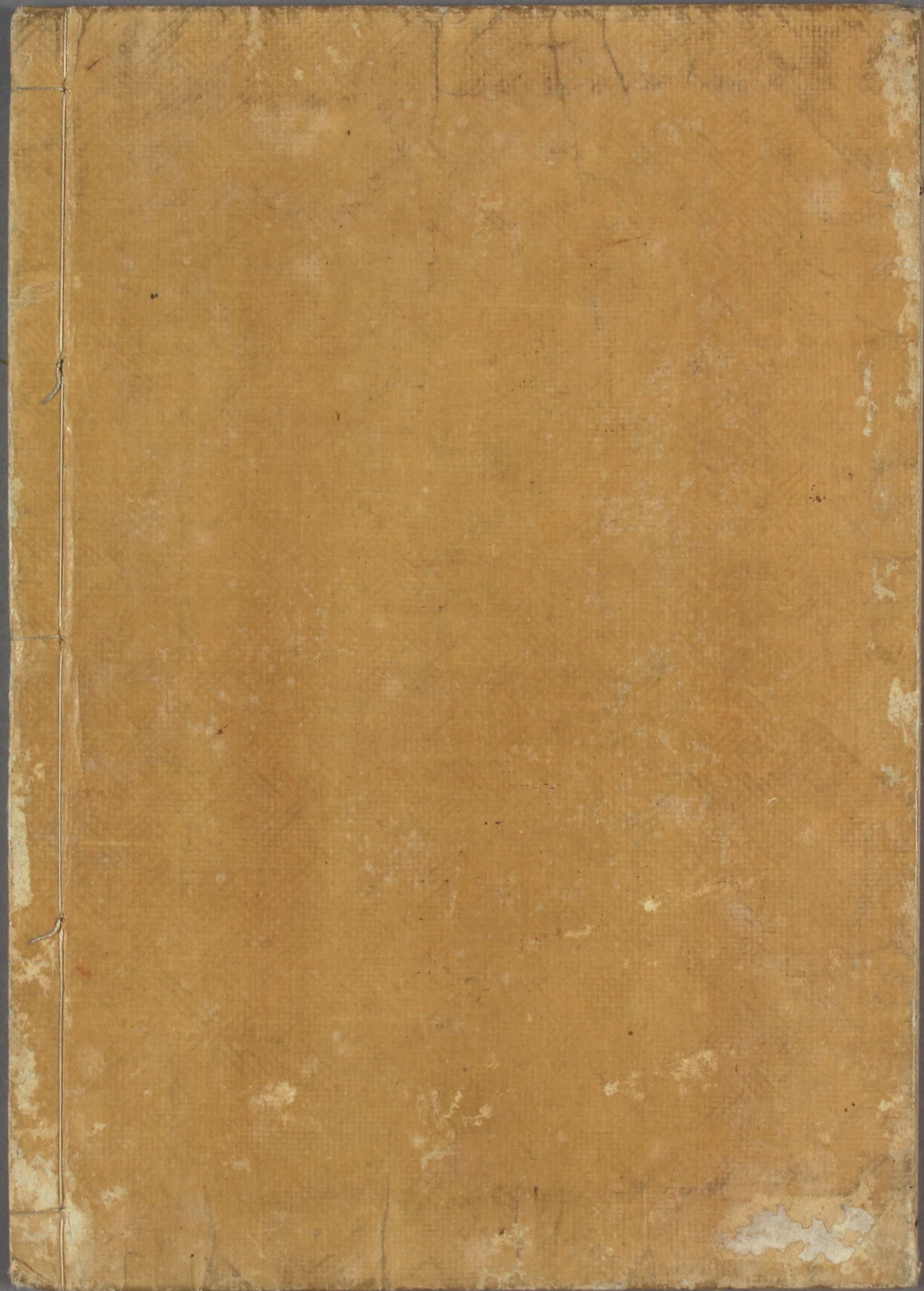
百園敷田年治先生著述書目

○紀外神名徵	二卷	○皇族類纂	二卷
○八代集姓名譜	一卷	○音韻啓蒙	二卷
○類字便覽	三十卷	○式抄地名便覽	四卷
○標注播磨風土記	二卷	○宇佐宮雜徵	一卷
○國典字徵	五十五卷	○言林掃葉	一卷
○真字源氏物談	一卷	○假名沿革	二卷
○職令便覽	二卷	○明狂私言論	一卷
○荒海日記	一卷	○對狂私言論	一卷
○野推名義考	一卷	○新撰身滌祓詞	一卷
○日本紀新釋	一卷	○玉乃由久閑	一卷
○戶籍雜徵	一卷	○西籍雜纂	四十一卷
○官籍新論	二卷	○古事記標注	七卷
○畿内志便覽	三卷	○諸國雜纂	七卷
○國史姓名錄	十五卷	○氏族類纂	一卷
		○得度考	一卷

○國字考	一卷	○禮儀略	一卷
○班田考	一卷	○諸國國造考	一卷
○古葬徵	一卷	○郡名私考	一卷
○諸國風土記考	一卷	○神乃伊吹	一卷
○百園雜纂初編	二十二卷	○同二編	二十三卷
○同三編	二十卷	○同四編	二十卷
○同五編	二十卷	○百園歌集	二卷
○百園長歌集	二卷	○同文集	二卷
○佚史	四卷	○姓氏錄證注	二卷
○日本紀標注	二十六卷	○腎癰子	一卷
○加不知夫利	一卷	○大祓詞私考	一卷
○中臣宮處本系帳考證	一卷	○祝詞辨蒙	五卷
○學能多豆伎	一卷		

右の外に、猶次ニ著し給へば、草稿等の數多あなれど、其を訂正を加へ清書成りて後、書き加ふべくなむ。明治二十年五月 門人等謹記

明治二十年六月廿五日
 三哲山主筆



敷田年治先生著

標注播磨風土記 全二冊

明治二十年

八月新鐫

五十杉園藏版

五十杉園藏版